

【創業 100 周年の聚楽】

すだちょう
“須田町食堂”創業ヒストリー第 4 弾を発刊
戦争は終わった…奈落の底から這い上がる“復活期”

じゅらく
聚楽グループ

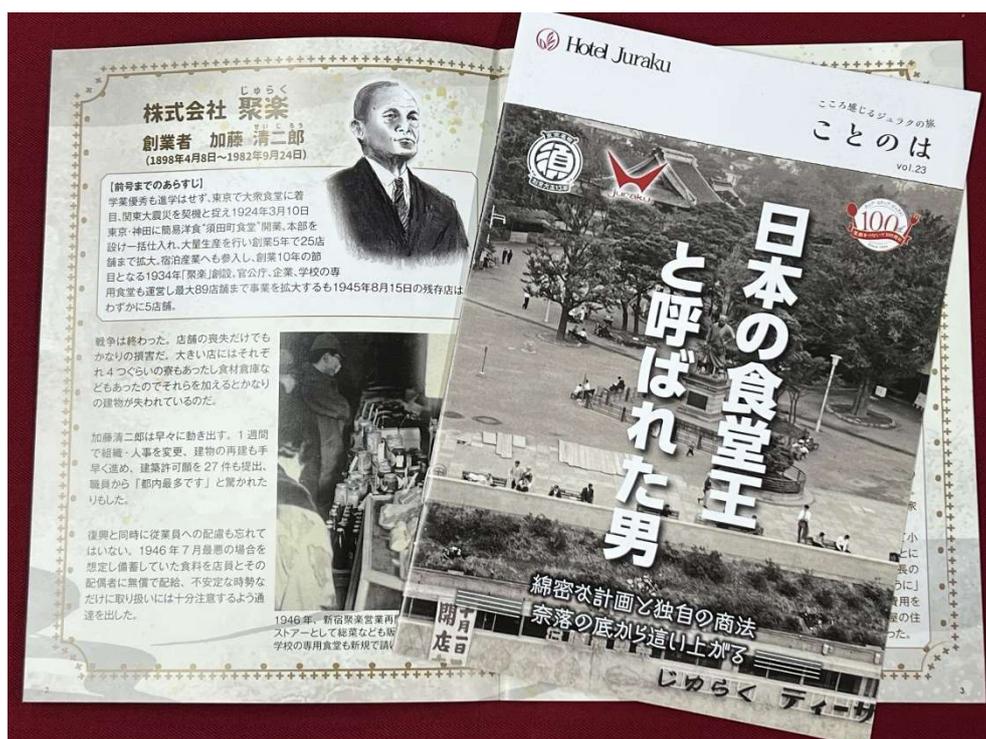
株式会社聚楽（本社：東京都千代田区、取締役社長：加藤 治）が発刊している情報誌「ことのは」第 4 弾で終戦～高度経済成長期頃までの“復活期”をまとめましたので、聚楽グループの各ホテルやレストランで順次無料配布します。WEB でも閲覧可能です。

《<https://www.hotel-juraku.co.jp/info/kotonoha/>：「ことのは」Vol.20～Vol.23》

【前号までのあらすじ】

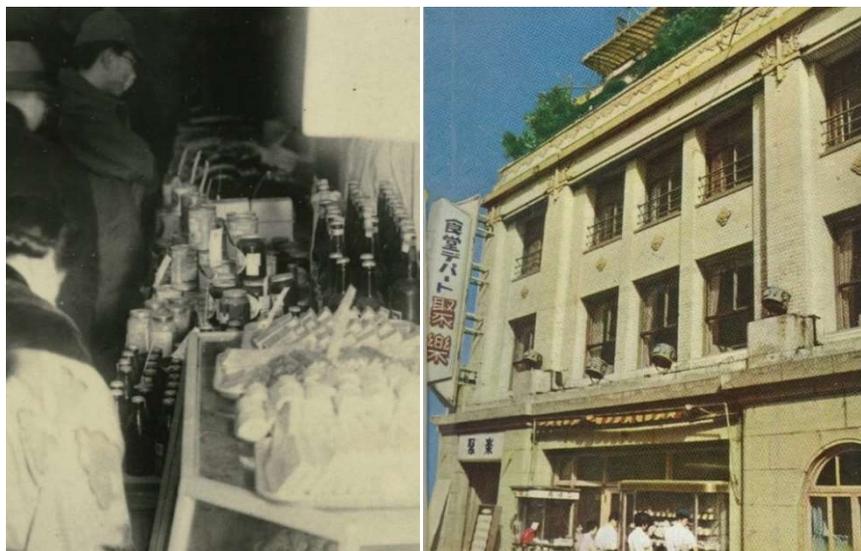
創業者である加藤清二郎（せいじろう）は、学業優秀も進学はせず、東京で大衆食堂に着目。関東大震災を契機と捉え、1924年3月10日東京・神田に簡易洋食“須田町食堂”を開業。本部を設け一括仕入れ・大量生産を行い、創業5年で25店舗まで拡大していきます。宿泊産業へも参入し、創業10年の節目となる1934年に「聚楽」を創設。一般食堂に加え官公庁、企業、学校の専用食堂も運営し、最大89店舗まで事業を拡大するも、1945年8月15日の終戦時、残存店はわずかに5店舗となりました。ここから“聚楽復活期”が始まります。

取材及び冊子郵送ご希望の方は(株)聚楽（じゅらく）：堀越
 info@hotel-juraku.co.jp までお問い合わせください。



■奈落の底から這い上がる

「戦争は終わった。店舗の喪失だけでもかなりの損害だ」大きい店にはそれぞれ4棟ほどの寮や、食材倉庫などもあったので、それらを加えるとかなりの建物が戦争で失われました。しかし、加藤清二郎は早々に動き出します。1週間で組織・人事を変更、建物の再建も手早く進め、建築許可願を27件も提出。従業員への配慮も忘れてはいません。1946年7月、最悪の場合を想定し備蓄していた食料を店員とその配偶者に無償で配給し、不安定な時勢なだけに取り扱いには十分注意するよう通達を出しました。



写真：(左) 1946 (昭和 21) 年『新宿聚楽』営業再開。店舗 1F は食品ストアとして総菜なども販売。
並行して企業、学校の専用食堂も新規で請け負う
(右) 1960 (昭和 35) 年の食堂デパート『新宿聚楽』

■戦後復活に忍び寄る影

聚楽従業員である北田氏は、慈恵医大の教授宅へ伺った折「渋谷の知人が焼け跡の土地を売りたいと言っている」という情報を掴みます。視察に行くと一面の焼け野原とあって山手線が眼下に走っていました。教授の紹介とあって契約はスムーズに進みましたが、敷地内に一軒の掘っ立て小屋がある事に気付きます。戦争で住処をなくした一家が戦後の混乱の中ここで生活を送っていたのです。加藤は一家を心配し「無理に追い払う事の無いように」と指示し幾ばくかの立退費用を渡しました。そして数日後、この一家はトラブルなく引き払っていきました。

その後も、本業の飲食・宿泊事業以外にも積極的に新規事業を手掛けていき、復興と同時進行で拡張の道を突き進んでいきます。



写真：(左) 1947 (昭和 22) 年 6 月 伊東かにや聚楽開業。場所は現在の伊東ホテルジュラク
(右) 1947 (昭和 22) 年 9 月 旅館渋谷聚楽開業。1960 年代からはスポーツ合宿などの利用が多かった (1995 年 8 月まで営業)

しかし、1947（昭和 22）年 7 月「飲食営業緊急措置令（ポツダム政令）」が発布。事実上の飲食店営業不可、直営食堂 18 か所（店舗名不明）は開店休業状態に陥りました。コロナ禍の 2020 年 4 月に東京を含む 7 都道県で発令された「緊急事態宣言」と同じような状況がおきていたのです。そして 1949（昭和 25）年 4 月、2 年間続いた緊急措置例は廃止され、既存店舗は徐々に営業を再開していきました。

■水上温泉と結ばれたご縁

東京と郷里新潟を絶えず往復していた加藤は、清水トンネル開通以来、ちょうど中間に位置していた水上温泉を頻りに利用していましたが、1956（昭和 31）年、水上温泉旅館湯原荘を取得し、水上聚楽として営業を開始しました。「今後も永く客人として厄介になるとは考えておりましたが、よもや自分がお店を営むことになるとは思わなかったのであります」と後に語っています。

高度経済成長期にさしかかると観光事業も発展を重ね、一般大衆の利用も増えていきました。加藤は温泉観光における代表的な宿泊地をつぶさに視察研究し、国内第一級のリゾートホテルを建設します。



1962（昭和 37）年 5 月、水上聚楽を大改装し「水上ホテル聚楽」としてリニューアルオープンします。全館空調式冷暖房、エレベーターを備えた鉄骨鉄筋コンクリート造の 7 階建てで、日本の旅館に洋式を巧みに取り入れた最新鋭のリゾートホテルが完成しました。

←写真：1962（昭和 37）年に大改装し、リゾートホテルへと生まれ変わった『水上ホテル聚楽』



写真：（左）朝食にバイキング方式を採用したのは、日本では聚楽が初めてといわれている
（右）本館と地下道で結ばれた寮も完備。雪深い水上でも働きやすい環境であった



株式会社 ^{じゅらく} 聚楽

創業者：加藤 ^{せいじろう} 清二郎
(1898年4月8日～1982年9月24日)

■じゅらく情報誌「ことのは」設置場所

【宮城県】

- 御酒印船 仙台店

【新潟県】

- ジュラクスティ新潟
- びいどろ CoCoLo 新潟店
- 弥彦山ロープウェイ

【東京都】

- お茶の水ホテルジュラク
- レストランじゅらく上野駅前店
- 須田町食堂 秋葉原 UDX 店
- 酒亭じゅらく上野店・お茶の水店
- ブッチャーズ八百八 御茶ノ水店
- ワインバル Viña Vin Vino
- スペインバル El Chateo del Puente

【群馬県】

- みなかみホテルジュラク

【静岡県】

- 伊東ホテルジュラク

【福島県】

- 飯坂ホテルジュラク

- 亜麺坊 CoCoLo 新潟店

- 弥彦桜井郷温泉 さくらの湯

■浅草聚楽

- 御酒印船 新宿店
- 串揚げじゅらく 上野店・新橋店・アメ横店

- カフェ淡路坂珈琲 お茶の水店

- 明神そば きやり 神田明神前店

■万座ホテルジュラク

【兵庫県】

- 神戸ホテルジュラク

■会社概要

株式会社聚楽

【創業】1924（大正13）年3月10日

【資本金】1億円

【代表】取締役社長 加藤 治

【住所】東京都千代田区神田駿河台3丁目4番地龍名館本店ビル9階南

【従業員】正社員570名／パートタイマー450名（2023年4月時点）

【事業内容】都市ホテル・リゾートホテル・各種レストラン

【URL】<https://juraku.com/>

<本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 聚楽（じゅらく）

広報 担当：堀越 info@hotel-juraku.co.jp